

青楓



戸畑高校二八会



青楓（あおかえで）

「青もみじ」ともいい、いまだ青い楓のこと。青は「青春」の青を表す。

新緑のころ、楓が風に揺られ、手と手をつないでいる様子から別称「結び葉」とも言う。

若かりし頃の思い出を胸に、新しい感動を求めて、（二八会の仲間と）共に手を結び楽しんでいこう。







おいでやす！

内容

一、	京都大会へようこそ	七
二、	参加者一覧	八
三、	二八会へ寄せる思い編	十二
①	塚本昌俊さん	十二
②	吉良昭二さん	十三
③	若原（田端）洋子さん『パンの味』	十五
④	鬼橋佳代さん	十七
⑤	森脇（コンチャン近藤）朱美さん	十七
⑥	伊藤章さん『同窓会の効能』	十九
⑦	原川（安達）良子さん『京都二八会に参加して』	二十
⑧	石川（厚海）律子さん	二十二
⑨	増田（中藺）初美さん	二十三
⑩	村谷博美さん	二十四
⑪	石田弘輝さん『出合いのプログラミング』	二十六
⑫	永田光男さん	二十八
⑬	沼田宏毅さん『京都二八会そして…』	二十九
⑭	美坂邦彦さん『始まりは火事！』	三十
⑮	岡田守弘さん『二八会との出合い』	三十六
⑯	新立巖さん『京都へのいざない』	四十

頁

四、三十年の足跡編	・ ・ ・ ・ ・	四十四
■ブレイクタイム（吉良さんからの年賀状）		
①葛城誠一さん『二八会ホームページについて』	・ ・ ・ ・ ・	四十五
②仲田智彦さん『この三十年』	・ ・ ・ ・ ・	四十七
③氷室純子さん『娘時代』	・ ・ ・ ・ ・	五十三
④伊藤章さん『つくば・土浦に暮らして』	・ ・ ・ ・ ・	五十五
⑤工藤（若松）千賀子さん『私の仕事』	・ ・ ・ ・ ・	五十九
⑥八尋雅彦さん『人間ドキュメント』	・ ・ ・ ・ ・	六十
⑦黒井ひとみさん（仮名）『不思議に思うこと』	・ ・ ・ ・ ・	六十二
⑧新立巖さん『僕のウイニング・ラン』	・ ・ ・ ・ ・	六十三
■ブレイクタイム二（吉良さんひとりごと）		
五、短歌集	・ ・ ・ ・ ・	六十八
①詠み人知らずさん『名前はあかさされまへんのどす。』	・ ・ ・ ・ ・	七十
②神村貢二さん『短歌集』	・ ・ ・ ・ ・	七十二
③神村貢二さん『更生短歌集』	・ ・ ・ ・ ・	七十三
■ブレイクタイム三（吉良さんの主張）		
六、編集後記	・ ・ ・ ・ ・	七十四
	・ ・ ・ ・ ・	七十五

## 一、京都大会へようこそ

三十五年目の修学旅行にご参加ありがとうございます。ぜひこの機会に、若かりし頃の美しい時代を思い出してください。

我々の高校時代は、七十年安保の騒動も落ち着き、高度成長期の末期の時代です。浅間山荘での学生運動終結、好景気を支えた大阪万博も終わり、これ以上の景気のよい時代はなかった。われらが卒業した後、四十八年石油ショックにより、企業倒産が相次いで、そのあたりを食った同窓生とは、その後、音信不通の人もいました。

爾来、三十五年を生きてきて、なんとか社会の荒波を乗り越え、子を育て終え（まだまだの方もいますが）、おおむね生活にゆとりが持てるようになった年齢です。今後は、おのおの自分にとって大事と思う夫、妻、家族そして近所、同窓生仲間とのつながりを大切にして生きていこうではないか。もちろん亡くなった方もいらつしやいますが、その人たちの分まで、楽しんでいこうではありませんか。

この京都大会で、同窓の仲間が、“今生きる喜び”を心と体で感じ取ってもらえる感動の場になれば、これ以上のことはありません。（当日の案内パンフレットからの抜粋）

そして、この文集が、集いの感動を、いつまでも思い出として残しておく手助けになればと願っております。



一七、参加者一覧（敬称略） 五十二名（男性二十五名、女性二十七名）

荒川徹、石田弘輝、伊藤章、井上勝次、宇津木忠智、榎溪龍治、岡田守弘、鬼丸義生、葛城誠一、北田麻佐志、吉良昭二、小早川晶、塩川裕紀、下藪幹夫、新立巖、神村貢二、堤宏之、戸根孝義、仲田智彦、永田光男、沼田宏毅、松野尾淳、美坂邦彦、村谷博美、八尋雅彦

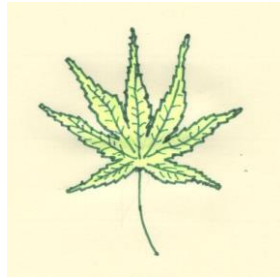
石川律子（厚海）、稲垣芳美（松崎）、岡田美智子（宮島）、奥山啓子（佐伯）、鬼橋佳代、勝原幸恵（山本）、工藤千賀子（若松）、小玉玲子（渡辺）、佐藤節子（藤平）、住田孝子（渡辺）、竹島芳子（中野）、都留陽子（登川）、十河桂子（皐瀬）、中村美佐子（大場）、永岩加津美（田中）、中山喜代美（中原）、西村邦子（角光）、原川良子（安達）、氷室純子（宮脇）、広瀬和恵（寺本）、深田佐智子（岸川）、増田初美（中藪）、松本雅子（武田）、森脇朱美（近藤）、山下千恵（池広）、吉村光子（平島）、若原洋子（田端）

※（ ）内は旧姓です。



平成十七年六月十一日（土）  
於 ホテル京阪 京都駅前





### 三、二八会へ寄せる思い編

#### ①塚本昌俊さん

今回京都での二八会に参加できないことは本当に残念です。これもひとえに私の不徳の致すところですよ。皆さんと共に京都での時間が過ごせず申し訳なく思っています。

大学生活は大阪で過ごしました。卒業後戸畑に戻り、また二十七歳から二年間大阪で過ごしましたので、京都にもいろいろなことで何度も足を運びました。色々なことと云うと意味深ですが、（本当に意味深な事もありました。）とても思い出深くその頃のことが見た映画のシーンのように浮かびあがります。

二八会も最初の開催から十五年が過ぎました。五十代と云う中年の時期を迎え皆さんそれぞれの立場にいますが、ここに会える喜びは大変な意味があると思います。

高校時代は話をするものはばかられた人でも、今は遠慮なく話ができると思います。

また高校時代は高値の花と思っていた人や、恋焦がれていた人がいたならば、今回は手を握る事は許可しますのでご存分に。

また握られた方も嫌がらずに握り返してください。ほっぺにチュウでもしてあげれば卒倒するかもしれません。

参加できなかったことは本当に残念ですが、皆さん大いに楽しんで元氣になって戻って来てください。（京都二八会当日のメッセージより）

②吉良昭二さん

天才は 忘れたところに 待ち人の前に現れる（字余り）  
ご開帳

“二八会京都インジャパン”とても楽しかったです。二八会オタクの私から見ても、よく準備されていて、とても満足しています。

幹事経験のない関西の人たちが、又、カリスマ幹事の塚本が不在だったにもかかわらず、あそこまで、気くばりとおもてなしの行き届いた会が出来たということは、すばらしいことだと思います。

学校の成績が悪くても、高校時代パツとしてなくても、人間その気になれば何でも出来るんだという、生き証人のような人達で、私たちに夢と希望と老後の生き方を、教えてくれたような気がします。お疲れさまでした。

“二八会京都インジャパン”が成功したということとは、次は、元氣な内の、“二八会ハワイインアメリカ”で、その次は、チョットくたびりかけた時の、“二八会四国（八十八箇所巡り）イン極楽”で、最後に、本当にくたびった時の、“二八会冥土（メイド）インジャパ

ン”へと続いて行くのではないでしょうか。

合掌

京都で二八会をしている時に思ったのですが、何かしら、心おだやかに落ち着いた感じがするのはどうしてなのかな、ということでした。それは、私たちは基本的には、関西人だということではないでしょうか。

私たちが生まれ育ったのは、JR西日本であり、西鉄電車で、西鉄ライオンズであり、たこ焼きとお好み焼きで、うどんのツユは、真っ黒でなくて底まですけて見えるうすくちであり、竜王のラーメンであり、奈良、京都、新大阪駅、阪九フェリー、甲子園、赤穂浪士、桃太郎、もみじ饅頭、ふく刺し、吉本新喜劇、漫才、関西弁が好きなのではないのでしょうか。私は関西弁が大好きです。ですから、二八会京都に行った時に、「おこしやす」って言われた時に、思わず「ビビッ」と電流が走りました。

二八会京都、高台寺、北政所（ねね）平成十七年六月十一日

六月（JUN—ジュン）に「ねね様」を見ることができました。これだったのか、じゅんとねね。

（※本文中に、二八会にそぐわない不適切な文面が一部ありましたので、削除させて頂きました。なお、作者にはご了解を得ております）

③若原（田端）洋子さん『パンの味』

楽しかったですね、同窓会。これを文集に投稿するべきか迷ったんです。文集制作の意図から外れているので。でもやはり彼女の気持を皆さんに伝えておきたいと、投稿することにしました。

『二八パン』を焼いてくれた友達は、二十一歳の息子さんを四月に亡くしたばかりでした。C型劇症肝炎での急死でした。彼女は毎夏行われる、息子の中学の同窓会に人数分のパンを焼いて持たせていました。『二八会』のことを彼女にいつ話したか覚えていないのですが、四十九日が済んだ後、電話がかかってきてパンを焼くから持つて行ってほしいと言うのですが、自宅から京都までは二時間かかります。私はその日は仕事があったので、大阪市内の仕事場まで持つて行き、そこから京都に向かわなければいけませんでした。一度は断ったのです。焼きたてパンの半分くらいは、運ぶ途中でつぶれてしまうと思ったからです。その後、友達のご主人から電話がありました。

『ウツなんです。四十九日が済んだ途端、パンを焼くことしか考えないんです。』  
私自身、ウツ病で入院した経験があり、そのような状態のときの心がどのようなものか理解できます。断れませんでした。

美坂君と新立君には友達からの差し入れですとだけ伝えておきました。パンをつぶさない



ように持つて行きますと。会場でも楽しんでいらつしやる皆さんに、事情は伝えられませんでした。それがあの『二八パン』だったんです。

後日、掲示板や個人メールで皆さんにお礼を言つて頂きました。石田君が書いて下さつた『：懐かしい温かい味：』というのを読んだとき、石田君には上記の事情を送信しました。私は石田君が製菓会社に勤めておられることを知らなかつたのですが、返信でC型劇症肝炎は症状の悪化が早いので、元氣だった人で急死するケースが多いことを教えて頂きました。石田君はその中で『：そんな辛い現実をご経験され、乗り越える事はできないでしょうが、否応がなしに受け入れた結果のパンの味だったんでしょね。本当にあたたかくて懐かしい心にしみいる味でした。：』と結んで下さつていました。

一週間ほど実家で静養していた彼女に会つて、皆さんが喜んでいたことを伝えました。以下、彼女の皆さんへの言葉です。

『お礼を言わなければいけないのは、私の方です。息子が元氣だったら出席したであろう三十年分の同窓会を頂いたような気がします。どうぞ皆さん、ご健康に注意されて、同窓会がずっと続きます事を祈つております。その氣持を込めて焼かせて頂きました。ありがとうございます。』

私自身、五十を過ぎて皆さんと再会できた途端、井上さん、湧川さんの訃報に接し、ひどいショックを受けました。でもあの時代を共に過ごせた皆さんと、又この時代をたまにご一

緒できることを、とても感謝しています。

人生の折り返し地点は過ぎたかも知れませんが、互いに支え合って、まだまだ一緒に思い出作りができますように！

#### ④ 鬼橋佳代さん

時が ゆっくりと流れて行くような古都で、また 会えた同窓生たち。楽しい時を過ごさせていただきました。

一日は長く、一年は短いもの、気付けば、はや五十二歳！

身近な人たちが少しづつ旅立ち、私の人生これでいいの、こんなものなの、そんなことを考えます。

大切なことに気付くのは、過ぎ去ってからのことが多いようにも

思えます。とは言っても、健康で旅行にも参加できる今のしあわせに、

感謝しています。お世話してくださった皆様、ありがとうございます。

また、お会い出来ることを願っています！



#### ⑤ 森脇（コンチャン近藤）朱美さん

今回の京都旅行は中身の濃い、素晴らしい二日間でした。企画からお世話まで、多くの方

のおかげです。心から感謝しています。

こんなにたくさんの方が集まったということに感動をおぼえました。卒業以来という方もありました。

「カサブランカ」の最後、飛行場でハンフリー・ボガードがイングリット・バーグマンに促しますよね。「君はラズロに必要な人、彼と行きたまえ。僕は大丈夫。僕にはパリの思い出がある。これからの人生、この思い出があるから生きていける。」正確なセリフではありませんが、なぜだか、ここが大好きです。

私も、この旅行の、目に焼きついた、たくさんシーンを思い出して、過ごして行こうとおもいます。

行きの新幹線から、M君の隣に美女が座るというハプニングがあり、ひやかす気分は高校生、小雨に濡れた高台寺のかえでの緑、ねねの生涯もそちのけでおしゃべり、天竜寺で天井を見上げてエーッとかオーッと歓声をあげて皆でグルグル回ったこと、あれは不思議でした。湯葉つくりで熱中し、土鍋がふきこぼれそうになって、みなでフーツ、フーツしたこと。二度目はみなうまく出来ましたね。どの人も笑顔が素敵でした。女性も男性も。

この心地よさはなんだろう。

アナログの方が判りやすく、家の中を見ると無駄が多く、パソコン、携帯と苦手で、現代のライフスタイルに遅れそうな私。文を書いても、漢字、四字熟語など出てこない、ひら

がな日的日々をすごしています。そんな私に、こころ安らぐ友たちとの旅行でありました。ハワイを楽しみにしています。

### ⑥伊藤章さん『同窓会の効能』

十数年ほど前に会社の若い人に誘われてサッカーを始めました。幸い、東京や京都に転勤してもその地でクラブチームを見つけて仲間に入れてもらうことができ、土浦に戻った現在もかつてのチームでプレーを続けています。二十代から三十代が主体のチームのほか、四十代限定、あるいは五十代限定のシニアチームも経験することができました。関東にせよ関西にせよ、シニアはシニア同士で大会を開いています。

若手主体のチームで試合に出ますと、相手の若いフォワードに振り切られても、「まあ相手は若いしな。しゃーないな。」と諦めがつくのですが、シニア同士で同じようなプレー結果になりますと、「なんであのおっさんに負けなあかんねん。」となります。同世代というのは、言い訳を許さないものです。

チームメンバー間でも、シニアの場合には微妙な緊張感を感じます。ふだんは顔を合わせることがなく、年に何回かの大会の時に、「あ、こんにちわ。お久しぶりですね。今日もどうぞよろしく。」といった感じになるからです。一緒にウォームアップを始めると、「おっ。か



らだのキレがええやん。結構練習しとるな。」とか、「〇〇さん、ちーと足腰よたつてまつせ。」と厳しいからかいの声が出ます。同世代だからこそ比較可能であるという暗黙の了解があります。

ここで同窓会です。まあサッカーとは違いますから、肩肘張る必要は全くなし。いつもよりはちよつとだけ良い服を着て、心身ともなるべく健やかな顔を出したいものだと思っています。この、「心身ともなるべく健やかな顔を出したい」と思う気持ちですが、私にとつては同窓会の一つの効能になっています。身体の機能が少しずつ低下し、外観も経時劣化を起こしてくるのは当たり前ですが、こういう気持ちを持つほうが毎日の暮らしに張りが出ると感じています。人生いろいろですから、大きな病気をしたり、勤務先が不慮の事態に陥ったりするケースもあるでしょうが、前向きな気持ちを持ち続けたいものです。

土浦の田舎に住んでいることを言い訳にして、関東、関西、九州いずれの二八会にも幹事をやっていないことを、申し訳なく感じています。なるべく顔を出そうと思っっていますので、今後ともどうぞよろしく願います。

最後になりましたが、関西二八会の皆様、今回は本当にありがとうございました。

⑦原川（安達） 良子さん『京都二八会に参加して』



私は、去年の東京の二八会の同窓会の時から、京都の同窓会に行こうと決めていた。そして、九州の同窓会の案内のはがきにも、京都の同窓会には行く予定ですと書いた。そもそも、京都は、中学の修学旅行以来で、心がわくわくし、楽しみしていた。宮脇さんが、ホテルと新幹線をセットにしたチケットを、購入してくれたおかげで私は、何も心配せずに、同窓会に参加する事ができた。

京都に着いたら、バスに乗り、南禅寺に行き、高台寺では、お茶を飲み、お菓子をいただいた。京都は、小雨が降って、それがなかなか風情があり、しっとりしていて落ち着いた京都を見学する事ができた。夜は、ホテル京阪で、みんなで合流し、歓談した。どの人を見ても、愉しそうで昔の歌を歌い、大いに盛り上がった。

夜は、二時三十分過ぎに部屋に戻り、宮脇さんと寺本さんと一緒に部屋だったのだが私は、彼女たちに、「環境が変わると寝られないかもしれない。」と言っていた。それが、ベッドに入ると、一分もたないうちに、まっ先に寝てしまった。恐るべし、おばさんなのだ。翌朝は、ホテルで、バイキングだった。あまりにも、おいしくて、すごい食欲だった。

私達は、登川さんの案内でバスに乗り、貴船の川床に行った。そこで、食事をした。初めての経験だった。とても、緑の綺麗な所で、新鮮な空気を吸い、自然を満喫した。

高校時代、それ程、親しくなかったのに、不思議と分ち合える友、話せる仲間達  
今回、しみじみといいなあと感じた。これを、企画し、運営してくれた仲間達に、感謝！  
みんなに、有難うと言いたい。

⑧石川（厚海）律子さん

『重き腰 持ち上げてくれた 友たちと 声囁れるまで しゃべって笑って』

京都大会は本当に楽しかった！ もう一生分楽しんだ！と、思つて余韻に浸っている時に、次の秋の東京でのお誘い。

戸惑いながらも、しっかりとカレンダーに書き込んでいます。

このバイタリティと押し付けではない一歩踏み込んだ親切に、いつも癒され元気をもらっています。

九州、関東、関西の幹事さん、そしてたくさんの方の協力してくださる方、ありがとうございます。もう、親戚もいない九州だけど、私にとってこの二八会が温かいぬくもりのふるさとです。

⑨ 増田（中藺） 初美さん



「ここに参加できる人は勝ち組だよね」

「そんなことないのよ。みんなそれぞれに抱えている事があっても遣り繰りしてなんとか参加しているのよ」

私も義母の事があり、ぎりぎりまで参加できるかどうか？東京駅出発組の三名分のチケットを預かっていたので、それを口実に・・・今回は何が何でも行くぞ！！の意気込みで・・・東京駅に全員集まった時はホッとして旅行の始まりだと云うのに無事終えた気分でした。

「なんだ、私の抱えていることなんてたいした事ない、みんなそれぞれ頑張っているんだ。私も頑張ろう！」って思えるのもこの様な機会（集まり）があるからこそです。

感謝しています。

二八会は先細りせずにとんどん大きくなっていきますよね。すごく嬉しいです。これも元祖好感度ナンバーワンの葛城君がホームページを開設してくださったことが大きいですよ。それにみなさん忙しいのに気軽に幹事を引き受けてくれて、皆がいつでも気持ち良く参加できる環境をつくってくれてるので続いていくのだと思います。

今回の京都大会は同級生の八（クラス）分の一が集まり、参加はしたことあるけど今回は



できなかった人が私の分かるだけでも二十名はいると思います。すごいですよね。その後も新メンバーが見つかったようですね。いつまでも二八会が続くこと、また元気で参加できることを願っています。

京都旅行、楽しかったです。ただ心残りはいろんな人と会話ができなかったことです。高校の時に接点がなかった人（ほとんどの人がそうなんだけど）とは何を話して良いのか・終わってみて後悔しています。でも次回の楽しみとしておきましょう。

次回の大会はハワイ????この調子だと本当に実現しそうですね。

#### ⑩村谷博美さん

みんな！

楽しかったね。

なごやかな会でよかったね。

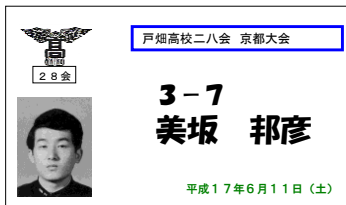
いろいろ話ができてうれしかったね。

久しぶりで会う人も多く、なつかしかったね。

高校時代の思い出が、鮮やかによみがえってきたよね。

ジャンケンもゴルフの予想も、面白かったね

写真の入った名札が素晴らしかったね。



雨の京都も風情があつたね。

また会おうね。

有り難う。

楽しかったなあ、という思いを胸に、仕事にもどりました。

福岡市の東の端にある九州産業大学で、学生や教職員の健康相談に応じながら、健康学、医学の世界という講義を担当しています。医師になって二十七年、高血圧をはじめとする生活習慣病を診てきました。多くの患者さんとの出会いを経験し、生涯を通じて健康に過ごすためには、若い頃から良い生活習慣を身につけることが大切だと痛感しました。授業の場でも、生活習慣病の予防を中心にしながら、「生命を大切にしよう」というメッセージを送ることを心がけています。

今の職場にうつるまでは、琉球大学にいました。そこでは「自律神経系による循環調節」という実験的な研究にも首を突っ込んでいました。自分で仮説をたて、それを検証するための実験を行い、まだ他の誰も知らないことを己の手でみつけることが出来たときは、ワクワク、ドキドキ、ウツシツシ、それは楽しいものでした。したがって、研究の現場を離れることに寂しさも感じましたが、優秀な後輩が育ってきたので、ちようどよい潮時だと思つて福岡に帰ってきました。これからは、自分が蓄積してきたものを明日の社会を担う若い人たち

に伝えることで、社会に恩返しをしたいと思つています。五十歳になろうという時に、新たなスタートラインに立つことができたのは、非常に幸せでした。

今回、二八会に出席して楽しいひと時をすごすことができました。皆、それぞれに苦労を経験し、それを乗り越えてきたのだということが、よくわかります。私の授業を聞いてくれる学生たちも、社会に出ていろいろと苦労はするでしょうが、三十年後には、このような幸せな時間をもつてほしいと願つています。

#### ⑪石田弘輝さん『出会いのプログラミング』

私が生まれ育った九州を離れたのは大学入学の時からですから、かれこれ三十年以上故郷を離れている事になります。その間、特に社会人になってからは高校時代の事を思い返すという事は正直云つてまずありませんでした。また生活基盤が関東になってからは、さらに高校時代の友人とも縁遠くなり音信不通状態が長く続いておりました。それだけ日常の生活に追われて、振り返る余裕がなかったのかも知れませんが、自分にとつて高校時代というものが完全に過去の話になっていたのかもしれない。そんな中、私は全く偶然に戸畑高校二八会なる同窓生の集まりがある事を知りました。

今でも良く覚えておりますが、あれはちょうど私が五十歳になる年の三月の午後の事でした。朝から続けていた資料作成が一段落つき、お茶をすすりながら遊びで自分の名前をパソ

コンのネット検索に入れてみたのです。なぜそうしたのかも判りませんし、今までもそのような事はした事がありませんでした。ただの思いつき、かつてに指が動いたというのが正解に近いかも知れません。その結果を見て、一瞬目を疑いました。検索がヒットしたからです。最初は同姓同名の別人とと思ったのですが同じリストに見覚えのある名前がちらほら。それこそが二八会の住所不明者のリストだったのです。そこから二八会ホームページなるものを知り、来客が来るまでの一時間近く脇目もふらずホームページに没頭しておりました。

何だか急にタイムマシンに乗って高校時代に戻ったような言葉に表せない、懐かしさが入り交じった奇妙な感じだったのを覚えています。その後ホームページ管理者の葛城君に連絡をとり、六月に開かれる東京二八会のお誘いを受け出席したのが二八会デビューでした。二八会に出席して、高校の時には多分一度も話をした事がないと思われる方でも同窓生という安心感のせいかすぐに打ち解けられ、五十歳にして新たに友人がたくさんできたという感じがします。それ以来毎回楽しみに二八会に出席させて頂いております。また掲示板にも時々書き込みをさせて頂いています。掲示板の書き込みを見て卒倒しそうなくらい驚く方からもメールを頂いた事もありました。五十歳になるまでには思いもよらなかった人達との再会、人間年をとる事もそんなに悪い事でもないと思ったりしております。

私の場合時代の申し子のようなハイテク機器パソコンが、三十年以上前の同窓生に会わせてくれたというのも何か不思議な感じがしますが、最初からその時期に巡り会えるようにプ

ログラミングでもされていたような気がしてなりません。同窓生の中には私のように二八会の存在をまだ知らない方もいると思います。今後そのような方をみんなで発掘していければと思っておりますし、私自身微力ですが二八会の為に何かお役に立てればと思っております。

⑫ 永田光男さん

二八会京都大会は二〇〇五年六月と聞いたのは随分前、昨年秋か・・・現在私が勤務している会社は放送局のデジタル対応の為過去に無い忙しい状況が続いています。元気の出る二八会に参加はしたいが行けるかどうか？

今年に入り埼玉と鹿児島を担当が決まり、続いて大阪の担当も決まりました。・・・要は埼玉の仕事帰るか大阪の仕事帰りに京都によれば旅費も掛からないし負荷も余り無い、あくまでも仕事帰りですから・・・と我家の女房にも説明出来る。スケジュールは立案出来る立場にあるしユーザーさんにはそれとなくスケジュールを仕向ければ良いし、後は仕事をするのみ！

そんな折、翌日曜日には元気の出る二八会 Part Ⅱつまりゴルフをしようと言がきました。健康の為と言いながらゴルフやっていますが流石に仕事が忙しい最近は少し控えています。が、参加するからにはそうは言っておけません。練習をしないと皆さんの足でまといになる！ とこれからの日々は更に忙しくなったのは言うまでも有りません。

五月の中旬には堤君から“決戦まで一ヶ月となりました”のメールが来て、嫌がおうでも決戦ムード？（いや同窓会参加ムード）が高まり、絶対に行くぞ！このスケジュールを一日たりとも変更・失敗せず六月中旬まで頑張ろう！とまア、そんなこんなでなんとか二八会参加前の最後の出張（さいたま市）にこぎ着けました。出張はあつと言う間に二日間終わり金曜日の夕方にはいざ鎌倉（では無く）いざ京都 て感じで心弾んで新幹線に乗り込みました。

と二八会参加までの近況と言うか心境を書かせて頂きました。元気の出る二八会に参加出来て非常にリフレッシュ出来ました。三十五年振りに会った美坂君、岡田君、小早川君もいました。言葉では表せない一日となりました。同窓会の雰囲気はホームページの二八会京都大会の写真で楽しんで下さい。

⑬沼田宏毅さん『京都二八会そして…』

京都二八会は楽しく、記憶に残る二日間でした。六月十一日早朝に出発し、六月十三日深夜に帰宅する迄、四十五時間つきあってくれた葛城、堤、榎溪に感謝、気配りの石田、いつもの北田、それと宴会の時に下戸の私に日本酒をついでくれた巳年の貴方にもありがとう。関西二八会の心地良い“おもてなし”に感謝いたします。今も昔も男子クラスの私ですが、最近。パワフルな女性のメル友が出来ました。

標ズン語の私には、関西弁のメールは新鮮でユーモアもあり楽しんでいきます。その方のメールからの引用です。

“私は様変わりで申し訳ない…こともないですよね。”

再会を待つて頂いた訳じゃないから（笑）”

冷静に自己や状況を分析し把握した上でのおぼちゃんパワー、関西恐るべしです。

おかげで宴席が楽しく、盛り上がりました。

秋の上京を楽しみにしております。

六月十日にワクが逝きました。突然の事で、動揺した方も数多くいたと思います。私の一番大切な人でした。

合掌

⑭美坂邦彦さん『始まりは火事！』

明日は、長いあいだ準備していた京都二八会なのだと思いながら家にたどり着いて、缶ビールをぐつとひといきしていたところに、不吉な携帯電話の「プルプル」の音がする、仕事は総務なので電話が鳴るのは異常事態のお知らせである。案の定工場長からなんと火事なので早く会社に来い、とのこと、といっても我が家からは一時間三十分かかる工場まで、アルコールが入っているので車は使えず、とぼとぼ最寄の駅まで自転車をこいでゆくことになっ



た。

準備していると、そこに連絡の第二弾、駐輪場のバイクが燃えただけでもう消えたけど早く来い、とのこと。消えたならいいじゃないかと思うが、さにあらずこの後が大変なのである。警察・消防・新聞社等のケアをきちんとしてないと袋叩きにあう企業の今日この頃、とりあえず今からすぐ向かいますといって、こりややばいなと思いい新立に電話して「火事なので、いついけるかはつきりしたらまた電話するわ」といつて家をスタートした。

会社について、状況を把握してみると、すぐ消えたにもかかわらず消防車がきたため、ご近所へのあいさつ回りが必要ということで説明に回ったあと、これからが大変で今後の対策会議へと移ってゆく、原因はXXで、今後このようなことが発生しないようにするにはXXとけっこう永遠と続くのである。

この時点で消防も警察も帰ったことだし、明日は大丈夫であろうと判断し、もう一度新立に電話して、「集合時間の十一時には遅れるかもしれないが十二時三十分までには必ずいく」といつて、会社の対策会議へと向かう。三年前も工場でボヤをだしたので、小さな火事は経験済みで、だいたいの展開は読めていた。

ということ、家に帰り着いたのが三時でこういうときはなかなかすぐには寝むれないもの、でも五時ぐらいには寝付き、十時三十分起きて、いざスタート。あいにくの雨でホテル京阪にたどりついたのが十二時、十一時からいろいろと前準備をしていた、関西



の幹事さん達（新立、岡田、勝原さん、都留さん）に平身低頭して遅刻をわびて集金作業へ  
と入ってゆく。いつもニコニコ現金払い。

最初はどうかと思われてた二八会京都大会もいよいよ開催である。なんと五十名  
以上もの参加者となって、ホテル京阪の営業の方も、ツインを二十部屋押さえていたことで、  
てつきり夫婦連れで二十組と思っていたらしく、全員一人づつの参加ということですが、結  
束力ですなと感心していましたが、これこそ過去の二八会の蓄積のたまもの成果かと思わ  
れる。

つぎつぎと懐かしいメンバーが集合し、二八会のHPの写真では良く分からなかったが、  
みな高校時代の面影を残しており、話をしていると「あのころ」が匂いたってくる。さいわ  
い一人のドタキャンもなく、雨の中を観光バスに乗り込む、じつは初日のバスは「奈良交通」  
で頼んでいた「ヤサカ観光」ではなかったのですが、ばれなかったようです。ってばれてま  
したつけ、京都の町には奈良観光があうか。

でもガイドさんのつかみ「二八会ということで、一九二八年生まれの七十七歳の団体を想  
像してました」でみんなをいっきよに籠絡し、乗りのよい我がメンバーは素直に修学旅行モ  
ードに入っていくてくれた。どこにしようかといろいろと検討した結果、南禅寺・高台寺と  
いう少しだけひねったコースにしたのはまあまあだったかなと。

もし雨にならなかつたら高台寺周辺を散策してもらおうことができたのだが、高台寺の抹茶

でお坊さんの解説「雨の新緑の高台寺は最高にすばらしく、みなさんは一番いいときに来られました」とはまあそこまで言うかといったものすごいサービスではあったが、確かにしつとりした緑は癒しの空間となっていていい感じの出だしであった。

東山をめぐってホテルへ戻ってきて、これからメインの二八会である。始める前に集合写真をとり、さらに美坂のデジカメで念のために撮ったはずが、結局このショットはフラッシュ不足で薄暗くだれやらわからない画像でボツ、このデジカメ（松下製だ！）だめだということになってしまつて今はお蔵いり。ということ、永田がアップした集合写真は、プロの集合写真のスキヤナー取り込みである。

宴会の席は最初から無理やり（適当）に決めておいた席に皆さんに着席いただく、やはりなんといつても今回の収穫は「岡田の司会」であった。これは本当においしかった。アルコールが入ればやるときややる方とは思っていたが、ここまでやるとは思わず、巧みな司会で宴会は進んでゆく。

二次会は、近所のカラオケ店で四つの部屋を押さえていたが、ホテル京阪の営業さんに無理行つて、そのまま二次会をやらせてもらうことで話がついて、でもカラオケなんかほったらかしで話に熱中するかと思っていたのが、さにあらず次々とマイクを握つて、荒川先生など二曲続けてやつてたりして、武田さんが美坂の大好きな高橋真理子を歌ってくれてありがとう、これで最後を締めようと思っていた「青春時代」の大コーラスで無事二次会も終了。

名残惜しいが皆さんとはお別れとなった。

二次会の場所に迷って、しようがないから眠ってしまったと次の日言い訳して、明日のゴルフに万全のそなえをしていたはずの堤であったが、二八会終了時には知る由もなかった。若原さんから頂いた「二八パン」を明日の為に一個残し、一個だけ食べて後は夢の中。石田君が寝る前と朝と歯磨きしたので、俺の分の歯ブラシがなかったやんけ、しかたなしに手で磨いて出発したのであった。

堤は確かに張り切っていた、まだ薄ぼんやり寝ている美坂だったが、聞くところによると中卵の牛丼を朝から腹いっぱい食って、まだ五時だというのに新幹線に積んで持って来ていた、黒猫ヤマトのゴルフ宅急便で過去にえらいめに、あったのか、その吉良のゴルフバッグを引きずって廊下を行進している堤の後姿を見てしまった。

それにしても永田はネクタイを締め続けていた、東山観光、二八会、そしてゴルフ場に向かう電車の中、さらにゴルフが終わってからのパーティ、となると、皆さんの想像どおり実はゴルフをやってる最中も・・・ということはあるがにありえなかった。

しかしながら、あのネクタイで気合が入ったのか、まるでサイボーグのようにバシバシとアイアンショットを決めていたらしい、ショートホール（一回で打てば、届く距離）のニアピン賞（旗に一番近い人）はことごとくさらわれていってしまった。

そのアイアンショットが幸いしてか優勝までさらっていった、その余得にあずかった美坂

ではあったのだが、かんじんなゴルフについては、吉良・葛城の東西両巨頭（ただ単に頭がでかいだけではない、念のため）にはさまれて、ご二人の熱さを秘めたクールな戦いの観戦者となる余裕はなく、ひたすら走り回っていたいつものゴルフ風景であった。

そのコースは全米女子プロの試合が行われたコースで、途中に「ドーン」と赤い旗が立っていてあれは何ぞや、と聞くと、キャディさんが「あれはアニカ・メンソレタム、ではなかったソレンタム」がドライバー（一番長くてよく飛ぶはずの道具）で打った球が落ちたところです。とこうなると我が両巨頭は張り切るわけで、結果力が入りすぎて右に左にとわけわからないうところにボールが飛んでゆくといった結末となる。

ともかくにも、いつもの貧乏コースではなく久しぶりのキャディさん付きのゴルフで、結局両巨頭の迫真の戦いは最後は一打差で九州の勝利となったが、二人はやっぱり上手であった、変なところに飛んでいっても、きっちりトリカバリーができる、それとパット（旗の周りでボールを転がす道具）が抜群にうまい、相当な練習をしていてゴルフも仕事の一部だとか言いながらきつと家庭をないがしろにしているに違いない。

成績は、他の上手なメンバーとずいぶんはなれて、榎溪とのどんぐりの背比べで終わったが、仕事をはなれての気楽で楽しいゴルフであった。あの張り切りすぎた堤は痛恨の九十九でもうゴルフはやめようなどとまことに贅沢なぐちをこぼしていた、じつは美坂はまだその九十九は一回も到達していない成績なのである。北田はみんなゴルフができて満足、この

ために関西までやってきたともはや長老の風情を漂わせながらの悟りの境地であった。

最後は沼田の車で帰る東京組みを見送って我らはネクタイを締めた（しっこい）永田を先頭にJRで京都駅の集場所に向かったのであった。

再見！

#### ⑮岡田守弘さん『二八会との出会い』

高校の時の同窓会があるのは、知っていました。

毎年正月に、九州で開催している旨の案内状が郵送されてましたから・・・でも、出席した事はなかった。

二年程前のある日、「関西二八会なる同窓会を京都で開く」云々と書かれたハガキが舞い込んで来ました。

最初は何の事か判らず、間違つて？ それとも怪しげな勧誘？

差出人の名前は、新立？ 記憶にありません。

だから、返事もせず、そのままにして置こうかと・・・

ちよつと不安な気持ちで、待ち合わせ場所の四条河原町へ。

顔が判らない。事前にアルバムで確認はしました。でも、自信がない。

なにせ、卒業以来三十数年ぶりに会うのですから。ところが、人間は“感”



と言うものを持ち合わせています。つまり、本能です。

この集団??? 恐る恐る声を掛けます。ビンゴ!

それが、な何んと、新立・美坂・米倉・吉良(敬称略、順不同)と紅一点登川さん(旧姓)でした。

小生にとつては、初めての二八会出席となった訳ですが、

・関西では、今回が二回目の会合である事

・九州のみならず東京にも二八会なるものがあり、活発に活動している事

・専用のURLがある事

などを知りました。その後、皆よく喋る・笑う・頷く。時には、罵声も飛

び交い、異様な世界へ誘う・・・

徐々に記憶が蘇ってきたようなXYZ・・・昔、こんな奴らと? いや失礼!

おもしろい方々と高校生活を送っていたっけ? 驚きの連続です。

いつのまにか、二八会京都大会開催の幹事の一員になっていました。

準備期間中の今年一月には、塚本が来阪。さすがに名誉幹事!

一杯も二杯も呑みながらではありましたが、考えられる問題点や対処法など留意点のレクチャーを受けました。春には、あの甲子園球場(一回戦敗退! 残念!)で、

荒川・須澤・島田にも会えました。まさしく、MINI二八会?



刻々と時間は過ぎ去り、いよいよ追い込みの時期に入りました。

新立・美坂の頑張りが凄いです！目を見張ります！期待しています！出来そうです！（このような人が仕事している会社は伸びます！ちよつと、褒め過ぎ？）

更には、都留さん・若原さん・勝原さんのご支援（家庭では、内助の功と言います）をお願いしつつ、当日を迎える事となりました。

平成十七年六月十一日（土）曇り時々雨。

京都駅前のホテル京阪に、中高年がぞくぞく参集。

戸高二八会京都大会のはじまりはじまり

因みに、綾小路きみまろが書いてました、

「有効期限の過ぎたXX・賞味期限の切れたYY」をどうも中高年と言うようです。

（失敬な！でも、うまい事言うなあ）

面影のある人、無い人、判らない人、よくもこんなに集合しました。

そうなんです。むかあし・むかあし、北九州の戸畑の夜宮と言うところで、高校生活を過ごした仲間が時空（勿論、新幹線を使って）を超え、出席して来たんです。

そして、あの時代にタイムスリップするんです。

- ・ 気に入った女の子・男の子と目が合っただけで、顔が真っ赤になったあの時代
- ・ フォークダンスの時、手が触れただけで心臓がドキドキ、バクバクしたあの時代

そんな時代を過ごした仲間！なんです。

何故だか？いまだに、仲が良いんです。間が繋がっているんです。

これは、本当に凄い事なんです！（バスガイドの西川さんも言っていました。同感！）

午後六時三十分。

神村からの慶弔報告と黙祷に続き、

「改めまして、皆さん おいでやす！ようこそ 二八会、京都大会に起こし下さいました。

三十五年ぶりの修学旅行は如何だったでしょうか？

紅顔の美少年だったあなた・憧れのマドンナだったあなた・そうじゃなかったあなたも。

北は関東・中越から南は九州一円から総勢五十二名もの元戸高生徒が本日

ここに集まりました」

このようなセリフから、いよいよ授業の開始です。

補習もありました。翌日には、部活も・・・

皆さん！

楽しんで頂けましたか？ いい想いで作りは、出来ましたでしょうか？

（なに？ もう忘れたー！ごもつとも、ごもつとも）

最後になりましたが、

多くの方から掲示板やMAILへ労わりや感謝のコメントを頂きました。





有難うございました(アニハセヨ！ 謝謝！)

こちらこそ、素晴らしい仲間たちと再び出逢え、喜びを得る事が出来ました。この場を借りて、御礼申し上げます。もうひとつ、おまけに「おおきに！」それではまた、お会い出来る日を楽しみにしながら・・・これからも二人でも頑張るぞっと！

⑩新立巖さん『京都へのいざない』

一八八会が無事終了した。京都駅で十七時九分発東京行きと十七時十二分発の博多行きを見送った後、美坂と京阪電車の中で「無事終了してよかったな！」「一人の事故もなくよかったな！」と責任を果たせたことの安堵感で胸がいっぱいになっていた。

一年前、京都大会をやってほしいと伊藤からのメールが実質スタートといってもいい。東京の二八会は例年六月開催で、その席で「次は京都だ！」と盛り上がったらしい。その様子を伝えてきてくれたことで、関西在住組みの決心はついた。

盆正月に、九州にもなかなか帰省できない。東京の二八会には日程があわない。関西の間だけではマンネリ化する。「あの人がどうしている、この人がこうしている」とうわさが流れると「どう変わったかな。会ってみたいなく」の気持ちがあふつと湧き出てきて、体はどこか端っここのほうでくすぶって消えない。

全国からみんなを迎える立場になって考えて見たら、なんと難しいことだろう。ひとりひとりが京都にかけける思いが違う、初めのころは舞妓姿などの意見もあり、真剣に取り組んだが、実際の行程の中で舞妓姿への変身スケジュールを組み込ことの難しさ、また六月という季節は、暑さと雨を考えると参加する人の少ないこともあつて無理なことも知った。

最終的には、オーソドックスな旅程の中でいかに感動の多いものにするかということ考えていくことにした。

美坂も岡田もそうだが、せっかくお金と時間をかけて京都まで来てくれる。迎える側にとつて何とかして喜んで帰ってもらえるような二八会にしたい気持ちが強まってきた。

しかし、何をしたら喜んでくれるのか、皆目見当がつかない。気持ちばかりが先行しつつある。ひとつの解決策として美坂の取引先であるヤサカ観光に知恵を借りることにした。

会場は宿泊施設のあるところで交通の便がよいところ、会場の食事は懐石とし、ドリンクは飲み放題で予算は一万円以下で探してもらい。ホテル京阪と決めた。(最終的には、食事は美濃吉の懐石料理となり、垂れ幕、集合写真を含んで予算内で収まった)

当日の観光は、「最近のはやり」なこともあつて東山界限とした。テレビロケの多い南禅寺とねねの道で有名な高台寺が時間的にもぴったりであり、そこに茶席を盛り込むことにした。

さらに、お土産は「ようじやの油取り紙」と「西陣織の小物入れ(女性)」と名刺入れ(男性)「京都らしいものにした。

名札については、当初ホテルが作ることになっていたが、三十年ぶりの人がいるのに名前だけでは、私にとつて現在の顔と名前が一致しないと思つた。ほかの人もそうだろうと勝手に解釈し、写真入にすることにした。作つて見ればそこその出来栄でわれながら満足できた。一人一人をアルバムから名前を間違えないようにピックアップするのは緊張した。実は二名ほど名前と顔を間違えてしまい。また作り直したこともあつた。おかげでみんなの顔と名前を覚えることが出来、揚々と会場に出かけたが、現在の顔と過去の顔と現在の名前(女性)と過去の名前が交錯し、もつとわけがわからなくなつた。

受付で、高校時代の顔写真を見て、女性の人は必ず「いやだー！」と叫ぶ。意味がよくわからない。うれしいのか、本当にいやなのか、若い頃の可愛い自分を眺めるのがいやなこと？不思議だ・・・

男性は、大方の人が微笑む。八尋君にいたつては、「会社に付けていって、痩せていた自分を自慢する」そうで、はしゃいでいた。人のうれしがるのをみたらこちらもうれしくなる、それだけでも写真にしてよかつたなと思つた。

天候はどうにも出来ぬもの、当日の朝は雨！なんとついていない「こちらが泣きそうだ」。でも、京都の雨は風情があつてそんなに捨てたものではない。雨上がりの京都は、深緑の青葉の清々しい薫、なんとも言えぬ心地良さ。場所も高台寺。最高の雰囲気でした。

ホテル京阪の宴会場では岡田君の司会で最高潮、六時半から延々と十一時まで、みんな元

気やな！

うれしい付録がついた。若原さんが五十四個の「二八会」のパンをわざわざ南河内から運んでくれた。コッペパンの表面に“二八会”と書いたオリジナルパン、味付けも子供にあつた甘いパン。若原さんの友達がこの二八会のために焼いたパン。みんな喜んでくれた。

悲しい訃報もあった。前日十日に「湧川加代子さん」が亡くなった。全員で祈った。元気で再会できたことへ感謝し、今日のような集まりを大事にしたい気持ちが一層強くなった。翌日は快晴、ゴルフ組、嵐山観光組、貴船観光組に分かれて、各々楽しんで、京都駅で集合しての新幹線での見送りになった。

「明日からも健やかに過ごされんことを祈り、また再会を期してお別れである」

皆さんに、会えたことを感謝します。



## ブレイクタイム（吉良さんからの年賀状）

天才は忘れられる前に　また現れる（字余り）　凡才  
二八会京都イン酉年　平成十七年の年賀状です。　文集のさし絵がわりにでもなればと思つて送ります。

あけましておめでとうございます

今年はトリ年です。まずは、鳥インフルエンザの予防接種を受けて、渡り鳥のように疑いを掛けられたり、鳥肌が立つような事態にならないように心掛けます。又、気を付けたいのは、臆病なチキンハートと呼ばれたり、直ぐにトサカに来て怒ったり、落ち着きがないからトリ年生まれと間違われたり、重箱のすみを口ばしで突いたりして、「まだ口ばしが黄色いな」とか、「まだまだヒヨッコだな」とか言われたいと思います。

トリ年に因んで、お兄さんのナマズでは無くて、紀宮さまのように、愛鳥週間の時には心落ち着けて、バードウォッチングを楽しみ、帰りには閑古鳥の鳴く焼き鳥屋で、地鶏とケンタッキーで打ち上げをしたいと思いません。

常に早起きして、皆に夜明けを知らせて、親子どんぶりのように家族仲良く、おしどりのように夫婦仲良く、こまどりのように賑やかに、鷹のように爪を見せず、立つ鳥のように綺麗に片付け、鳴かず飛ばずにならないように、キジのように打たれないように、コロンブスのようなひらめきと、一石二鳥のような運を持った、コケツコーな年にしたいと思いません。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

かしわ　平成一七年　元旦

関西二八会編集室様へ　コウノトリに頼まれた伝書ばとがお届け致しました。　ジャン

## 四、三十年の足跡編

①葛城誠一さん『二八会ホームページについて』

ホームページ管理者の葛城です。二〇〇〇年七月二十二日 東京で合同二八会を開催しました。開催にあたり、どのように会を盛り上げるか、会場はどこにするのか、翌日はどうするのかなど当時の幹事の一員として活動しました。最初の集場所となった銀座でのウェルカムパーティーで、幹事として今後の連絡先に私のメールアドレスを紹介したりしました。当時は、一般の人が自宅でメールをもっているのはまだ少数で、メールって何？という感じでした。もちろん携帯メールなんてありません。当時、一部ちまたで自分のホームページをもち、趣味やいろんなメッセージを発信し楽しんでる人たちがいて、おもしろそうだなと思っていたところで、ちょうどそんなことが頭をよぎり、確か自己紹介とかのときに、つい「二八会のホームページを立ち上げます」と宣言してしまいました。

でも、当時は何もわからず、ただプロバイダーに登録してパソコンのメールアドレスを持っていただけの状態でした。それからその夏休みは、FRONT PAGEなどのホームページ作成ソフトを購入し、夏休み中ずっと作り方を調べ、カットアンドトライでなんとかFRONT PAGEで形あるものに仕上ることができました。次にプロバイダーに転送して

アップするというのが必要となります。ところが、なかなかこちらのパソコンで作成したとおりにアップできません。一部画像が出なかつたり、ページが抜けていたり、画像がでるのものすごく時間がかかつたりで、なかなか思うとおりにアップできなく悪戦苦闘をしておりました。そうこうするうち、ページのタイトルは英数字にするとか、画像は縮小で載せるとかでなんとかそれなりのものをアップすることが出来ました。次にやはり掲示板が欲しいねということになり、当時使っていたプロバイダーでは掲示板は提供していなかったため、掲示板を提供しているプロバイダーに加入し、二〇〇〇年九月二日めでたく掲示板スタートとなりました。すぐに、広瀬（寺本）さん、神村君、岡田（宮島）さん、増田（中藪）さんが掲示板に書いていただき、「掲示板作ってくれてありがとう」と書いていただき苦労したか  
いがあったと一人感慨にふけりました。

このようにして二八会のホームページはスタートしたわけです。その後、永田君がホームページを見やすくフレームを分けてくれ、二〇〇三年八月十五日に今の形にリニューアルしました。いまでは、九州二八会など一部永田君のプロバイダーのエリアを使っています。

さて、皆さんのおかげで二八会ホームページへのヒット数もかなりあるため、YahooやGOOGLEなどで、検索するとこのホームページが出てくるようになりました。皆さんもやってみてください。例えば、「増田 初美」で検索すると検索結果に我がホームページが出てきます。また、戸畑高校同窓会のホームページに二八会のホームページをリンクしても

らっていることもあり、今まで行方不明だった方がホームページを見て名乗りをあげてきました。これには本当に感激しました。

つい最近では片岡瑞江さんから連絡をいただきました。でもまだまだ行方不明者がいます。「おーい米村太一 どこにいるんだ」と。早くこの二八会の仲間に入っていたただきたいと願っております。

ところで、最近、私はゴルフしかしていないというイメージで見られているようで、好感度NO. 1の座を石田弘輝に奪われそうですが、これからも健康に気をつけ「文・武・遊・仕事」を適切に使分けおおいにエンジョイしていこうと思っております。

## ②仲田智彦さん『この三十年』

今年で会社生活三十年早いものですか？でした！。

いま考えると三十年前の三月の終わり、当時開通したばかりの新幹線に乗って就職。京都二八会でも話の出た一度しか行ったことのない関東で生活を続けています。横浜で生活してもなかなかこの地を心のそこから好きになれない、これは私だけの事かも。

京都の二八会、東京の二八会の人達は、今住んでいる所を第二のふるさとと想っている人がたくさんいると思います。が、私はまだこの年になってもなじめないのです。今は、子ども二人も大学、高校と手をかけなくてもいい年(本当は子どもと遊ばなくなっただけ)になっ



てきて、休みの日は近くの小さな畑で野菜を作ったり、近くの森の中や川を走っている生活となっています。

先日の京都二八会に合わせ三日ほど小倉の実家に帰った。三十年前の就職、独身時代の帰省、結婚後の子ども二人を連れての帰省、随分と新幹線の環境も変わってきたものです。独身時代は予約もせず新幹線の自由席へ飛び乗って、うまく座ればラッキー、座れなければただ立っているだけ。若いうちはあまり苦にならなかつたような気がします。その内、新幹線よりもブルートレインで、会社帰りに横浜から酒とつまみを手し、のんびりというパターンも随分と使いました。一番の楽しみは、朝の瀬戸内海を見ながら、もうすぐで九州とおもいをはせながら、ボーと外の景色を見ているときと、ブルートレインの先頭列車の交換で、下関で朝数分停車する時間に駅のうどんを食べることが、楽しみでした。今になってもこつち（関東）のうどんには溶け込めません。

子どもが出来、チビたちを連れての帰省は。まず切符の手配から。当時国鉄時代で、国鉄に知り合いがいればどうにかなった時代のようにでしたが、残念ながらそんな知り合いがない者にとつては、ただ窓口で並ぶだけ。と言っても出勤の前、一番の電車で横浜駅に来て、窓口が開く時間まで待つ。そんな時代でした。今のようないんターネットで予約するなんて考えられない時代でしたね。当時の新幹線は、今のようないんターネットで走ってしまうほど速くなかつた。多分七時間以上はかかっていたような気がします。長い時間、子どもを抱い

てうろろしていたことを思い出します。子づれの帰省も行きは新幹線、帰りはブルトレを使ったり、今となっては楽しい思い出となっています。十数年前、親父の病氣の見舞いで何度か続けて週末に夜行で帰り、また夜行で横浜に帰った時も、ブルトレにお世話になったものです。

最近では家族で帰省もなくなり、親戚の法事位での帰省となっていますので自分が親不孝しているのだろうかと思っっている次第です。

話は変わって三十年前には無くて、今、日常でいろいろなものが出来て使えるようになり便利になってきましたが、便利になった分、失ったものも多いのではないかと最近思うようになりました。小さなものでは電卓、会社に入った頃は四則計算が出来る電卓は七千円以上してはなかなかなか買えるものでもありませんでした。(いや全部飲んでいたのが事実。)掛け算、割り算、対数計算は計算尺なるものでやっていた時代でした。あの頃は、簡単計算は暗算でカバーしていたのですが残念ながら今は足し算の暗算もチャンとできなくなったのは私だけでは無いと思います。そして出て出てきたのがワープロ今はパソコンがこのワープロ機能を取り込みワープロ専用機は無くなってしまうもののワープロの出現で字を書かなくなり漢字が出てこなくなつたのも私だけではないと思います。いろいろとこんなものがあれば便利だな、と思っていたものが実際にあらわれ使っているうちに今まで人間の頭の中で処理していたことをしなくなりました。便利になったのかそれとも・・・

最近皆さんほとんどの方が使っている携帯電話、三十年前は漫画の世界で使っていたのが、だんだん現実となりそれがものすごいスピードで拡大するため、マナーが追いつかない状態と思います。携帯電話が、実用化され使われ出したときは、形も大きく、重く大変なものと思えました。実際に見たことも使ったこともありませんが、多分個人ユーザーはほとんど無く、会社関係で使用していたと思います。この時代は、使っている人を見ても多分あこがれ的に見たのではないでしょう。しかし今の携帯の使い方は電卓やワープロを使うことで字を忘れてしまったり、計算ができなくなったことより、もつと大切な何かを失ってしまうように思います。

昔は固定電話だけだったので彼女に電話する時（私には経験の無いこと）にしてもその家の誰かと話さないと話せなかったものが、時間も気にせずいきなり本人と話すことが出来る世の中、当然人への思いやりや常識感が欠落していきます。子どもに留守番させて出先の車から、お互いにいつでも出来る電話は、お互いの自立の障害になるように思ったりするのはただのとり越し苦労？。子どもに携帯を持たせておけば安全と思ひ込む親の話を聞くと本当にこれから大丈夫なのかなと思って、今も携帯を拒否しています。確かに便利とは思いますがものまだこれが無ければ生活できないものでも無し。私の生活では問題ないようですので無携帯生活を続けています。

テレビゲームもこの二十〜三十年に出来たもので、この出現でなくしたものも多いとおも

います。テレビで子どもの事件が起こるたびにこんなものを規制なしに世の中に送り出したのは大人の責任とします。やつと規制が始まりましたがテレビゲームの出現で、外で友だちと遊ぶことが出来ない子どもをつくってしまいちよつと先が心配。また、だめだったらセツトすればまたはじめからできると習慣になつてしまう考え方。

またまた話は変わつて今年には戦後六十年われわれが生まれたのは終戦後八年目でした。

子どもの頃買い物行つて商店街で、戦争で怪我をして帰つてきた白い服をきた人が立っていた事を子どもながら覚えています。傷痍軍人です。こんな事が、自分の親父の子どものころあつたと言つても、多分今の子どもは何の事か解らないでしょう。私の親父も戦争にいつてと言つても親父の話では背丈が小さく丙種合格？で医務の仕事をしたと聞いています。当然、尋常高等小学校卒業の親父が医者になれるはずがない。医者の補助をしていたとの事です。ですからお袋の母親の最後の時は、親父が医者 of 真似事をしていたのを思い出しました。シベリヤで捕虜となり極寒の地で暮らしたことの思い出を、小さい時よく話してくれました。薬がないときは炭を飲ませたとか、そんな話を子供の時に聞きました。マイナス二十度から三十度での生活ですから大変な生活だつたと思います。タオルは気温が低くあつという間に凍つてしまつたとか、いろいろな話を聞きました。

今の子たちで、ひもじさを知っている子は多分少数でしょう。今、小学校での給食を思い出しました。脱脂粉乳にコッペパンなぜかそんなにまずいと感じたことはなかった。これっ

ていいことなのかそれともただの腹の減ったガキ状態だったのか。それは別として、今、か  
んがえると我々二八会の小さな頃はまだ戦後だったのかも。

我戸畑高校の昔のプールもGHQが泳いだと聞いています。大谷に住んでいましたがあの  
頃が、一番北九州が繁栄していた頃だと思えます。子供のとき、夕方煙突から色々な色の煙  
が製鉄所から出ていてきれいだなと思っていました。実はあの煙は、今考えると随分危な  
いものを出していたのでしよう。洞海湾も何ともいえないような色をしていました。この時  
代があるからこそ、今の時代があるのはわかるものの、同時に色々なものを無くした時代で  
もあつたと思えます。昨日サイパンの話をテレビしていました。があの時代（戦前）の教育  
から考えると一億玉砕のような考えに全員がなり、多くの犠牲者が出たわけですが同じテレ  
ビを見ていても高校三年生の子供は全く理解できないと言っていました。

多分小さな子供はもつとわからないでしょう。そのことは我々が受けた教育を考えると理  
解出来ないのも頷けます。残念ながら近代の歴史についてきちんと勉強しないで大人になっ  
てしまったことも原因の一つではないかなんて思っている次第です。

だからだとこんなことを書きましたが、二八会のいいところは同じ年代であり同じ校舎で  
過ごしたからこそと思えます。京都二八会の案内にもあつたような気の置けない楽しい仲間  
とのつき合いを今後も続けられることが望みです。水泳部の偉大な先輩の一言が思い出され  
ます。『いくら偉くなっても俺は先輩だから』と同じように多分『どんなになっても同窓生だ

から』の考えで今後もよろしく願います。

京都二八会は本当に楽しい時間をくれました。こんなに多くのイベントで盛り上がっている同窓会はないと思っています。大事にしていきたいと思います。

### ③氷室純子さん『娘時代』

戸畑で過ごしたよりもずっと長い時間を、見知らぬ町々で、それぞれがなんとけなげに生きてきた事でしょう。泣く泣く故郷から離れて来た人もいるけれど、もう今では自分の居場所が故郷戸畑にはないのだというちよっぴり寂しい思いを経験したメンバーでの集まりに参加するようになって、それでももう早十年にはなるのでしょうか。

梅雨が明けたばかりの東京・上野の森に京都二八会参加の女性陣が集まる機会がありました。「舞姫の間」という森鷗外ゆかりの部屋での昼食会でしたので、文集のテーマに沿っての話題をこの紙面でも文学的にご紹介・・・できればいいのですが、やはり五十余年も生きてきて足跡を辿れば、簡単に書けないくらいそれぞれの抱えている現実の課題、問題は、それぞれにドラマティックで興味深く、重みがありますね。ドッジボールや着せ替え人形ごっこをして遊んでいたころには想像もできなかったけれど・・・

私自身を振り返れば、そう、やはり『京都』ですね。

私の中で、ささやかでも精神文化と呼べるものがあるとすれば、この青春の四年間を過ご

した京都時代の出会いのひとつひとつもまた、私にとっては大きな礎になっているような気がします。

京都二八会のちょうど一ヶ月ほど前のことですが、たまたま京都に出かける用があり、時間ができたので懐かしい同志社大学のキャンパスを歩いてみました。国禁を犯してまで米国に渡り、宣教師として日本に帰ってきた新島襄が、大きなミッシェンを掲げてキリスト教主義の学校を創立したのが、あのお寺だらけの京都のど真ん中、御所の真ん前だなんて、なんて大胆で勇氣の要ることだったろうと改めて実感しました。新しい時代を創りだした人物の凄さが再認識できました。「哲学の道」の傍に彼の墓所がありますが、学生時代はたいした関心も無かったのだけれど、私自身が聖書を読み親しむようになり、それが大切なものとなるにつれ、青春時代をその学校で過ごす事のできた幸いを改めて感謝できるようになりました。

「鳥は卵の中からぬけ出ようと戦う。卵は世界だ。生まれようと欲するものは、一つの世界を破壊しなければならぬ。鳥は神に向かつて飛ぶ。……」学生時代、あまり意味もわからないまま友人と暗唱しあっていたヘッセのデミアンの一節です。青春ですなえ。

京都二八会記念の文集という事で、懐かしい大切なものを振り返る事ができました。

初めての一人暮らしで、心細い思いをした若かりし頃……、初めての香りは、エイボンの「アンフォゲッタブル」。憧れていた人からのプレゼントでした。容器が可愛くてずっと持っていたのに、いつの間になくなってしまつて……陶芸や美術をする十歳くらい年上の綺

麗な人でしたが、佐賀県出身の封建的な人と結婚して、おしんみたいにお姑さんで苦勞して・・・新宿駅の壁画も手がけるくらいに才能ある人だったけれど・・・現実の人生は、本当に厳しいですね。私たちも余分な貫禄(?)もついて、逞しくなりましたものね。「アンフォゲッタブル！」今度、エイボンカタログで娘時代を捜してみようかな。

「舞姫の間」で食事をして、お腹いっぱいになった後、みんなで特大の美味しいフルーツクリーム白玉あんみつを食べてだーい満足！！

みんなの関心は、悲恋のラブストーリーより美味しいものにあるみたいで、これだけは娘時代とあまり変わらないようです。

#### ④伊藤章さん『つくば・土浦に暮らして』

高校までを九州で、二十代から三十代前半までを関西で暮らし、その後の四分の三をこのつくば・土浦で過ごしました。関東地域と言っても都心からは電車でおよそ九十分離れていますから、二八会の方々にはなじみの薄い土地だと思います。そんなわけで、地元の紹介を少々。

北九州であれば北に海、背後にはすぐに山があるというのが普通の風景です。京都、大阪でもそばに山の景色があるのがあたりまえ。ところがここつくば・土浦は、筑波山がぼつんとある以外は、いたって平らな景色が続きます。遠くに旅行にでかけ、帰路ようやくこの山



が見えると、たどりついたなとほつとします。茨城県西部に出かけて道に迷っても、筑波山が見えればおおよその方角が分かりますから安心です。夕陽がゆつくりと西の方へ沈んでいくのを見ることができるのは、この土地ならででしょう。

茨城弁はかなり強烈です。よく知られた「だっぺ」が語尾につくのは、茨城でも北の方です。土浦あたりはこの「だっぺ」は挿入されませんが、語尾にアクセントが入りつつ、イントネーションが語尾上がりになります。初めて茨城弁に接したときは、かなりとまどいました。地元でない方がJRで土浦駅にたどり着き、タクシーを拾うと運転手の話が全く（！）分からなかったという話は、あながち嘘ではないと思います。地元出身者の中には、正しい（？）茨城弁を話せるということ、フランス語か何かでも話せるかのごとく相当の自慢にしている者もいます。関西弁を家庭内標準語としている我が家では、茨城訛りが入ると厳しく指摘されます。地元の小学校に通う次女が一番危ないかというところでもなくて、実は私の失点が一番多いようです。「言葉に対する感受性が高いのよね」と、いつも苦しいいいわけをしています。

食べ物のお話を少し。まずはそば。栽培農家が近郊に多数あるので、地元の蕎麦粉を使った挽きたて、打ちたてを看板にする店がたくさんあります。十割蕎麦、うんと細い麺、田舎蕎麦、極太の麺と多種多様。名店紹介のガイドブックを片手にあちこちを訪ねるのは、この地に住む蕎麦好きのおおいなる楽しみです。盛り蕎麦の大盛りが私の標準。最後にそば湯をい

ただと、本当に幸せな気分になります。ただし温かいそばは、関西の方がいいですね。「だし」に対する力の入れ方がずいぶん違うように思います。

残念ながらうどんとラーメンはイマイチです。うどんは完全に蕎麦の脇役。ラーメン店は乱立していますが、うまいとうならせる店は少ないように思います。正直な話、なんでこんなラーメンを出しているのにつぶれないのかと不思議に思う店が何軒もあります。やはりうどんは大阪、ラーメンは九州でしょう。

海に近いということもあって、魚はうまいです。北九州とは魚の種類も違うと思います。関西から転勤してきた二十年近く前、スーパーでいわしの刺身を見たときは驚きました。いかやサンマの類も、目の透き通ったものが並んでいます。冬場になると、近くの漁港であんこうのつるし切りを見ることができます。あんこうなべは好みが分かれるところでしょうが、この土地ではポピュラーな冬のメニューです。漁港の市場でカンパチまるまる一匹を刺身にさばいてもらい、仲間とつきあったのは懐かしい思い出になっています。ときおり、これが魚かと思えるような異形を見かけるのも、この土地ならではかなと思います。

肉と言えばこちらでは豚。肉の専門店でも豚が主役です。焼き肉大好きの我が家では、関西では当たり前で売っていたタン、ユツケ、センマイがなぜこの地では手に入らないのかと、いつも皆でぶつぶつ言いながらカルビで我慢しております。BSE騒動のおかげで、タンは日本全国どこに行っても貴重品になっているようですから、今はあきらめがついていますが

…。鶏肉もマイナーです。基本的に田舎なので、小さなコンロか七輪一つでお手軽に屋外BQ（バーベキュー）が楽しめるのですが、焼き鳥にぴったりの鶏肉というのも手に入りません。ここでもまたカルビを焼いて、我慢のBQとなります。まあ、よく冷えたビールさえあれば文句はないのですが。豚肉はもっぱらキムチ鍋でいただいています。茨城県産の豚肉はローズポークというブランドなんだそうです。なんとなくありがたくて、おいしい気になるから不思議。鍋の翌日にキムチ鍋雑炊にするのが、最近の我が家のパターンになります。

茨城県は北海道に次ぐ農産県ですから、つくば・土浦でも新鮮な野菜や果物は実に豊富です。有機農法を実践している農家と契約して、週に一度トラックで野菜を直送してもらえるのも、この土地ならではのようです。農協の直売店もいくつかありますが、その季節に旬となる野菜や果物を豊富に提供してくれています。六月のメロンは少しずつ時期をずらしてアンデス↓クインシー↓藤衛門と三品種くらいが次々に出ていました。

菓子、特に和菓子が良い味に達するには歴史が必要だと感じています。残念ながらこの地の和菓子には、少々上品さが欠けているように思います。（家内はこの点が非常に不満なようです。）砂糖のたっぷりとした餡が詰まった巨大な「どらやき」が名物の一つになっているくらいですから、およそ想像して頂けるだろうと思います。洋菓子はまあまあです。

最後に日本酒の話をつくばの霧筑波、石下（いしげ）と読みます。つくば市の西隣になり

ます。)の紬美人、結城(結城紬で有名な町ですね)の武勇といったところは私のお気に入りです。米どころを反映しているのでしょう、車を走らせていると酒蔵の数が結構多いと感じます。見学と試飲をさせてくれる蔵もかなりあります。筑波山の麓にある真壁町へサイクリングに出かけ、いくつかの酒蔵を訪ねて試飲だけでよい気分になった楽しい思い出があります。結城の酒蔵では、トイレを借りた次女が昔ながらのポットンにすっかりびびっていました。

京都のような歴史、東京のような刺激には欠けませんが、まあのんびりとした所です。ご興味をもたれて、もしこちらへ来られることがあればご連絡下さい。たいしたことはできませんが、ご案内いたしましょう。

#### ⑤工藤(若松)千賀子さん『私の仕事』

私は今、介護老人保健施設で、介護福祉士として働いています。この仕事に就き、六年目になります。いかに施設での生活を楽しんでいただけか、模索の毎日です。

年に何度か行われるイベントとして、先日「飲茶大会」なるものを開催しました。職員は皆、チャイナ服、カンフーシャツを着て、ドラを鳴らし、餃子の実演、中国茶のお手前等本格的です。

もつと雰囲気盛り上げるために私たちもひと肌、脱がなければなりません。男性はカン

フーの実技。女性はチャイナ服姿で扇子を持ち「サンフランシスコのチャウナタウン」を踊りました。

この仕事をしていなければ、こういう経験もなかったでしょう。そして努力の甲斐あって、皆さんいつも違う表情でした。車椅子から立ち上がり、踊っているおじいさんもいます。

介助しているだけでは見えない笑顔が見たくて「次はハワイアンにしよう！」とフラダンス姿を思い描いている日々です。

#### ⑥八尋雅彦さん『人間ドキュメント』

それは、東京出張のときだった。八尋は高知から東京へ電話した。「おみやげは」息子の答えはこうだった。「高知競馬場で話題になっているハルウラのTシャツを！」八尋はおみやげを買った。その時TVのインタビューを受けた。日本テレビだった。その後、私を追いかけて来たテレビがいた。NHKだった。インタビューを八尋は受けた。その後一ヶ月経った。高知競馬場の入り口だった。そこには、ディレクターがいた。「探しました。今晚、お札に一杯やりましょう。」八尋はその晩、人間ドキュメントの出演を快諾した。酔っぱらっていた。テレビの反響は大きかった。八尋は困ったが楽しんでいた。競馬関係者とも知り合いになった。その時一人の馬主がいた。八尋は馬を買った。エトワールアンジュだ、新馬のチェリ―も買った。そして、オリジナルも買った。

オリジナルは走った。また、勝った。しかし、オリジナルの勝てない一頭の馬がいた。中央のオープン馬のシンボリだった。三戦三敗だった。シンボリに勝つのがオリジナルの目標となった。勝てば高知では五本指に入るところか、頂点も見えてくる。八尋の夢は関東か関西で勝つ。夢は広がった。

それは戸畑高校の京都同窓会の日だった。高知競馬のメインで対決の日だった。携帯が鳴った。勝った。宿敵、シンボリに勝った。

そして八尋は決心した。園田競馬に転厩しよう。八尋は関西へ走った。加藤厩舎に決まった。オリジナルは行った。そして、いきなり園田のメインで走った。厩舎から電話が入った。「戸畑高校二八会から電報がきています。人気馬なんですネ。」八尋は驚いた。嬉しかった。そして、もっと嬉しい出来事が起きた。勝った。オリジナルが勝った。四番人気の愛馬が一気にゴボウ差し。史上最強のサラリーマン馬主を目指すと冗談で言っていたが、勝った。そして、次のレースもまたメインだった。愛馬は一番人気だった。圧勝だった。

同級生の応援が嬉しかった。挑戦はさらに続く。

（\*製本に際し、八尋さんからカンパがありました。二八会の皆さんに、オリジナル・ステップの応援をして頂いたことへのお返しとのことです。

お陰で製本の価格を低く抑えることができました。ありがとうございました。）

⑦黒井ひとみさん（仮名）『不思議に思うこと』

十年ひと昔と言うけれど

三十年もまた、たったひと昔のような気がする。

高校の三年間は一生のうちのほんの一瞬だったんだ。

子育ても一段落して振り返ると、

卒業してから一足飛びに

現在になってしまった気がする。

真つ只中にいる時には気づかなかつたことが、

この歳になって、

不思議とはつきり思い出す瞬間がある。

あの時あの言葉を言えばよかつた。

あの時ああすればよかつた。

若すぎて気づかなかつたいろいろなこと。

今だからやつと感ずるのだろうか。

みんなそうなのだろうか。



⑧新立巖さん『僕のウイニング・ラン』

「ゴールの白い帯が見えてきた、誰よりも最初にそのテープを切って、ゴールに倒れこんだ。一番だ！やったあ！白いテープが体に巻き付き、無造作に払いのける。ゴール係が一位席に誘導してくれた。思わず座り込み、後ろに腕を突っ張って、快晴の空を見上げた。最高の気分だ！」

どこにでもある、運動会のリレーのゴールシーンである。でもこれが僕の夢。小さいころからのたった一つの夢。十七歳になって、この夢がかなえられそうだ。

いつから、意識しだしたのかはつきり覚えていない。小学校一年生の運動会では、ぶりだった記憶はないが、びりの様子が写真に残っている。撮った親が「お前も親父に似て遅いのお」ショックだった。小さいながらも、早く走ることへの期待が消えた。しかし、毎年運動会はやってくる。かけっこが嫌いで、出場したくない。悩みながらも、要領悪いこともあって、断ることもできずぐずぐずと、かけっこに出てしまった。また、今年もぶりである。

小学校三年生のとき、熊本から北九州に引越した。恐ろしいことに全員リレーがある。どういう意味でこんなことを企画したのか、企画した人は、みんなが参加できるようにと善意で考えたのかもしれない。大いに迷惑だ。出場したらみんなの足を引っ張るのはわかって



いる。さらに惨めなのは、各クラスの人数が合わないので、最少人数に合わせて出場しない人を決めなければならない、そんな場合の第一候補になる。「お前はあしが遅い」のレッテルを貼られたのと一緒だ。遅いのは否定しないが、それをあからさまにする企画が許せなかった。

五年生になった時、全員リレーはなくなりほっとした。しかし、走ることへの嫌悪さはある。中学になっても同じだ。人に比べ身体が小さいせいもあって足が速くならない。身体が小さいので、おそらく相対的には、小学校に比べもっと遅くなっていたような気がする。運動は嫌いではなかった。ただ走るのがいやだった。学校一周マラソンのときは、しんどさもあって、三週のうち一週で棄権した。棄権したらポイントにならない。びりでもワンポイントになる。やはり非難された。

子供は、結構残酷だ。大人の場合、相手のことを思いやり非難することはしないのだが、子供はそんなことは関係なしに自分の都合でものを言う。悪気があることではない。そんな環境の中で、耐えることを学習していくのであろう。

高校生活は一変した。子供のころのしがらみがほとんどない、自己責任の世界に変わった。入学当初は他人事より自分のことで精一杯。めまぐるしく時間が過ぎていく。今思うと、短い期間で新しい世界が広がったのだが、すごく長い時間の経過を感じた。精神的に落ち着くのは二年生になってからと思う。回りが見えてきて、自分なりの意見が現れてくる。何をや

つても自分の責任ですることが求められる。高校によつて違ふかもしれないが、通っていた高校は、新しいものに挑戦することを肯定し、何事も積極的であつて、それに対する非難、中傷はない校風だ。自己責任のもと、自由に行動ができる。しかし、体育祭のリレーは団体競技で、クラスの名誉を掛けての感が強かつた。

体育祭の出し物に誰が出場するかで話し合いになつた。クラス対抗リレーは順当に行けば、清木場、進、向野の三人十一で決まる。誰の発言か思ひ出さないが「これならうちのクラスがダントツだ。誰でもいい」その一言が、長年夢見ていた、「ゴールのテープを切りたい」の強い衝撃にかられ、思わず手を上げた。一瞬、教室が静寂になつた気がした。自分でもなぜ手を上げたか、いまでも不思議だ。おそらく、最後のチャンス、思いつき走り走つてみたい、何かをしたい、の結果の衝動だつたのかも知れない。

賛成あり、反対あり。「ゴールのテープを切りたい」に理解者が多く、出場が決まつた。四人目の候補であつた恵濃が積極的に賛同してくれたことには驚いた。親に報告すると、何も言わず、ただあきれていたのを覚えてゐる。この時に親から自立したと感じた。

とはいつても、学年で最速一位と二位の清木場と進にとつては迷惑な話、また、勝利が常の二人にとつては足手まとい。ではなかつたらうか。そんなことは一切言わず、本番までの一ヶ月の特訓が始まつた。

走ることがはじめてで、どんな走り方をしていいものやら。見よう見まねで走つた。見兼

ねた清木場がコーチになった。陸上部の片隅での練習みたいなものが始まった。

体力もない、走り方もわからない、そんな僕を、じっくりとひとつづつ懇切丁寧に教え、付き合ってくれた。おそらく自分の練習を削つての指導であつたと思う。うれしかった。いまでも感謝している。

練習はダッシュが多かつた。一週二百六十メートルを走れる体力もない。ダッシュを繰り返し、距離を日ごとに延ばしていく。なぜか、少しもつらくなかつた。楽しかつた。ただ走ることがこんなに楽しいと思つたことははじめてである。清木場コーチは本当に厳しい指導だつたが全然苦にならなかつた。脚あげで最初は上がらなかつた足も少しづつ長く続けられるようになつた。でもまだまだで、横で走っている堀江さんが物凄く大きく見え、たくましく感じ、脚を長く伸ばして走る姿にあこがれさえ抱いていた。そのようになろうとは思わないが、少しでも近づけたらとの思いで短いひと月が過ぎて本番になつた。本番の前日、リレーに出る野球部の松本、吉良と一緒に走つてくれたのはうれしかつた。

さて本番である、恵濃のPRが効果を発し、本体育祭の影の目玉になつてしまつた。どんなレース展開になるか予想がつかない。僕が出なければ、七組（我らのクラス）が優秀で話題にも上らない平凡なレースであつたが、今回ほどわくわくするものはない、走る本人が興奮状態。

僕は当然アンカーを主張した。他の三人から反対にあい、二走になつた。一番惨めではな

いか。おそらく一走の向野が一位で帰ってくる。まだまだダントツではない。抜かれる恐れがある。抜かれたくない。必死で頼み込んだが拒否され残念ながら夢も消えた。でも僕の出たレースでチームが一位になれるだけでもよかった。恵濃曰く「何人抜かれるか。また、後の二人で何人抜き返すかが楽しみですね」なんと非情な解説。やる身にもなってみろ。よしそれなら、神頼みだ！

現実には恐ろしいもので、予想通りの展開で進む。一走の向野が一位で二位を三十メートル程離して帰ってきた。さあ、出発。バトンもうまく受けた。第一コーナーまでは練習のとおり快調に飛ばす。第二コーナーを過ぎたところで島田が横を見ながら抜いていった。抜かれてから力が入ったのか、思った以上に進まない。第三コーナー手前で次々に抜かれていく。富永が僕の顔を見てニコと笑って抜いていった。もう完全に我を忘れている。第四コーナーを過ぎたところで足が上がらない。進まない。あごが上がって空が見える。ゴールが見えない。進が待っている。心臓がバクバクしている。やつとの思いでバトンを進にわたしてゴールに転がり込んだ。進が懸命に走っているのがわかる。一位とは半周以上の差だ。一週に近い。顔を上げたときには、進が数人抜いていた。これはすごい。本当に一位になれるかもしれない。期待した。後三人を残して進から清木場にバトンタッチ。清木場も早い早い！

トップ争いは、吉良と松本の野球部コンビ。清木場が三位に出た、後半周。でも一位グループは第三コーナーを過ぎて第四コーナーに近い。進もそうだが、清木場も飛ぶように走

っている。飛んでいる姿にうつとり見とれていた。ゴール付近では吉良と松本のゴールイン、ほぼ同時だ。

ゴールでテープは切れなかったけれど。選抜されてリレーの代表になれた。こんなことは一生に一度かもしれない。恥ずかしさはなかった。むしろうれしかった。今でも後悔は全然ない。一ヶ月間、自分なりに練習をし、それをみんなが支えてくれた。五十メートルのタイムが、8.8秒から7.4秒にあがった。普通の人の早さだ。

普通の人の早さ7.4秒。これが私にとつての「ウイニング・ラン」であった。

爾来、三十余年、自分の速さで人生を走ってきた。相変わらず走る速さは遅いが、まったく気にならない。あの時の経験が僕の自立を促したのは確かであったと感じる。みんなありがとう。

いつだったか、進が亡くなったと聞いた。進の走る姿を思いだした。僕の中で駆け抜ける姿がいつまでも残っている。冥福を祈る。

### ブレイクタイムニ（吉良さんのひとりごと）

文章を作成したり、俳句にチャレンジしている（まるで、ハイジン同様にはなりたくなかったのですが）自分が信じられませんが、

戸畑高校は、〈文武両道〉をモットーとしていますが、私は反対です。どっちつかずの中途半端に思えるからです。十のエネルギーがあるとすれば、得意な分野に七割か八割を注ぎ込んで、不得手な分野は、それなりに適当にがよいと思えます（得意な分野を七割として、もつと頑張って八割対三割が好きです。焼酎のお湯割りは、普通六割対四割ですが、焼酎を

山盛り注いで、七割対四割が好きです。実際社会人になって、得意な分野を天職としたら、それで充分に生きて行けます。長所を強調すると短所がかすんでみえます。学力優秀 スポー ツ万能 品行方正 容姿端麗 全て備わっている人なんて居て欲しくない (天に、一物も与えてもらってない人もいるのに) です。

京都二八会で、小早川に卒業後初めて会いました。彼は全然変わってなくて、「学生服を着たら、そのままで高校生だね」と言う、「吉良も野球帽かぶったら、そのままで現役だね」と外交辞令を交わして、お互いに年月と伴に社会ずれたなと感じました。高校二年六組の時、小早川とは、何でか知らないが仲が良くて、二人合わして「文武両道」だねと言われていました (かん違いするといけないので確認しておきますが、小早川が「文」ですよ。

関東、関西、本家二八会に参加して見て思ったのですが、本家の人たちは、どこも無くおっとりとしていて、お人好しで、(総領の甚六) タイプです。その代わりに、関東、関西の人たちは、たくましく、しっかきりしていると思います。どのような理由で、北九州に居られなくなつたかは分かりませんが、地元を離れ、親元を離れるという事は、いろいろと言葉では言い尽くせないご苦労があったんだろうなと、ご推察申し上げる今日この頃の (次男の甚六) であります。

でも、二八会のメンバーは皆んな、北九州弁を母国語とし、主に戸畑区に生息した、北九州に土着した原住民であることを誇りに思つて忘れないで下さい。

二八会のメンバーは減ることはあっても増えることはありません。メンバーの入れ替えは出来ません。好きとか嫌いとか我がままはやめましょう、これは運命です。あきらめなさい。

戸畑高校二十四回生首席卒業 吉良昭二

ジャンジャン

## 五、短歌集

①詠み人知らずさん『名前はあかさされまへんのどす。』  
短歌と呼べるほどのものではないので、「名前はあかさされまへんのどす。」

- くん、ちゃんと呼び合う声の重なりて  
いつでももどれる 高校生に
- あかり消し友の話に聞き入るも  
私の知らない三十三年
- 見上げれば目元に面影ただよいて  
ちよつとうれしくちよつとはずかし
- 同窓の関西なまりいたにつき  
三十余年の月日を想う
- 途切れたる友とのたよりこの場にて  
「死」という言葉で 終わり告げらる
- 全員が天空の龍見上げおり  
ゾロゾロ歩く時計まわりで
- 竹串にみなの視線集中す  
湯葉すくう君の口もと愛らし
- チリチリと手のひらで鳴るガラス玉





京のもみじのみどり 色して

○ 年月と日々の暮らしの温度差を

飛び越え唄え二八会

○ 千躰の観音様とご対面

三十三間かに歩きにて

○ 毘沙門は四百年をその顔で

言いたきことをこらえたような

○ 高台寺苔のみどり深さまし

空気かき分けサンダルの音

○ ドラサーヤ一日おいてほおぼりぬ

友との会話復習しつつ

②神村貢二さん『短歌集』

○ 初恋の 君を抱きし 京の宵

戸根のいびきで 我に戻れり

○ ちゃんくんと 呼びつ呼ばれつ ときめいて



高台寺の庭

言の葉（古都の葉） しみる 哲学の道

○ しのび雨 古都の緑も 色冴えて

思うは君の あの日の笑顔

○ デジカメの データあやまり削除して

気づいたときには あとの祭りよ

○ 下野毛で 遊びてみつけし 白いもの

苦劳かけたと 眼になみだ

○ 髪の毛を 指でしごいて ちじれつ毛

今はかなわぬ わかげのいたり

○ 雨にも負けず 風にも負けず

北田 にも負けぬ 我が頭

③神村貢二『更生短歌集』

文は人なり。といわれ、ドキリとしました。間に合えば下記の詩と差し替えてください。

○ 参道の ゆれる木漏れ日 踏みしめて

我が半生を 友と語らん

※ 人生の陽光は強ければ強いほど闇（影）も深い。

金閣寺



気を許せる旧友「厚海」との 会話が印象的だった。

○ 黄昏の 古都の山の端（やまのは） まだ蒼く

古人（いにしえびと）の 鐘（こえ）がきこえん

※ まだ黄昏る年齢ではないが、昔なら平均寿命かもしれないが、「まだまだ若い、頑張れ。」と、鐘の音に励まされているよう。

○ たらちねの 母も通いし 古都の道

懐中の父と 何ぞ語らん

※ 今は無き母が 父の遺影を胸に 独り京都の旅をして 歩いたかもしれないこの道すがら、父との会話を楽しんだのでは。

### ブレイクタイム三（吉良さんの主張）

《文武両道》 京都二八会の二日目はスポーツ組と観光組に分かれて、まさしく《文武両道》  
でしたね。

《文武両道》は理想の姿ですが、反対に文も武も両方とも駄目な場合は何と言うのでしょ  
うかね（今、ドキッとしたあなた。学生時代の成績はパツとしなくて、ゴルフの成績もパツ  
としなかったあなたのことではありませんから、ご安心下さい）。文も武も両方共とんでもな  
くひどくて、あきれて、口ではとうてい言い表せない状態の場合を、《文武道断》と言うので

はないでしょうか。

ゴルフの俳句に挑戦します。

○今日のルールはノータッチ、だつたらキヤディーさんにワンタッチ

○右に左に美坂さん、いいな、いいな、キヤディーさん独占し

○「お客さん、ピン立ってますか」(キヤディーさん)、「いいえ、もう立ちません」(堤さん)、

「はい、もう立ってます」(沼田さん)

○チヨロばかり、やつぱり榎溪さん 前立腺

○奥さま、いくつで上がりました、四十五、へー最近の女性で、あがるのはやいのね

○堤さんドライブよく飛びますね、どうしたらそんなにドライブが飛ぶんですか、ん

くそうね、振り終わったら手を放すのよ

○先日、新幹線のグリーンに乗っていたら、車掌さんに聞かれたんです、「お客さん、ゴルフ上手でしょ」 「どうして分かったんですか」 「だって、下手な人は、なかなかグリーンに乗らないんです」

## 六、編集後記

★文集の企画を考えたとき、どれくらいの人が賛同してくれるかなと大変心配でした。結果的には二十人以上という大勢の方々からの投稿で、本当に感謝しています。

美坂君や若原さんのHPでの、積極的な呼びかけ。呼びかけがなかったらこんなにも集まらなかったと思います。特に若原さんのタイムリーな呼びかけが伊藤君の二つの投稿につな

がりました。伊藤君はHPのしつこいほどの呼びかけから投稿が少ないのではと察知して、心配で二編の作品を送ってくれました。編集する側としては本当に救われた思いです。

この文集に投稿した人も、しなかった人も、二八会にける思いは同じです。その思いの一端として読んでいただきたいと願っています。

最後に、この二八会の仲間が、いつまでも手をつなぎ、励ましあつて、青年時代の素直な気持ちのまま付き合っていけることを期待しております。

なお、投稿作品の中で、誤字脱字または不明瞭な表現につきましては、原文を損なわないように修正をさせていただきました。しかし、十分修正できていない部分があるかもしれません、どうかご容赦ください。皆さん、いつまでもお元気で！（新立）

★氷室さんの手紙を塚本君が託かり、塚本君と知り合いだった北九州の叔母が郵送してくれたのが昨年の大晦日でした。それから半年後の京都大同総会への参加、そして文集発刊と目まぐるしい日々の中で二〇〇五年の夏を迎えています。

新立君の文集完成にかける熱意に動かされて、多少のお手伝いをさせて頂きました。

投稿下さいました皆さん、原稿募集中に相談にのって頂き助言、あるいは心配下さいました皆さん、文集発刊を望んで下さいました皆さん、HPを管理して下さいている葛城君、永田君、お世話下さつてる各地の幹事の皆さん、心よりお礼申し上げます。

尚、表紙は、新立ご夫妻、中のイラストは美坂君の奥さんの手によるものです。

この文集が皆さんの五十代に実りをもたらす一助になれば、幸甚です。(若原)

★待ち合わせのエレベーター前には、若原さんはいなかった、「みなわからないと思うので、十一時二十分にはXXビルのエレベーターの前で待ってます」のメールだったのに。なんと、仕事をしていた遅くなってしまったとの事、土曜日なのに大変。

例のごとく岡田は遅刻である、連絡がないところを見ると、自分の場所をまだ見失ってはないうのである、そのうちに来るであろう。ということ編集会議は始まった。

この文集に関しては、ほとんど新立と若原さんに動いてもらっていたので、なんの役にもたっていない同胞の岡田と生中をどんどん飲んで、いろんな話をしていたら、じつは、じつは「週間実話」なんや、といった一部にしか受けなつかしいギャグはおいといて、じつは、岡田は家ではXXXであったのだ、という驚愕の事実が暴露されてしまった。この続きが読みたい方は、「青楓」第二号を乞うご期待ください。(美坂)



またお越しやす！

□ 編集スタッフ

岡田守弘、勝原幸恵、新立巖、

都留陽子、美坂邦彦、若原洋子

□ イラスト画はミセス美坂さんに、題字はミセス新立さんにお問い合わせいたしました。





非売品

「青楓（あおかえで）」第一版 2005年8月21日発行

編集人 「二八会京都大会を成功する会」

発行人 「二八会京都大会を成功する会」

発行所 「戸畑高校二八会」

「二八会京都大会を成功する会」 SHINDATE&MISAKA Lt